

熊谷の聖天さま

筑波公民館 宮坂章司

住宅の建ち並ぶ筑波の一角に聖天様があります。約五百年前の室町時代に創建（創健者不明）され、昭和二十七年区画整理で現在地（筑波 1-7）に移された。

正確には、大聖大慈大悲歓喜天といい、単に歓喜天、又は聖天様とよんでいる。御本尊の歓喜天はバラモン教の神で、人々の生活の邪魔をする鬼神でしたが、ある時、仏にさとされて仏門に入り仏の守護神となった。そして、善事を成就させ、あらゆる災禍を除き富貴を授けるようになったという。

このようなことから熊谷宿でも災禍を防ぐ鬼門除けとして、東の聖天（筑波）、西の聖天（石原）と二つの聖天様が祀られたと伝えられている。又信者の多くは歓喜天を持仏として肌身につけて持ち歩いたため、手の内に入るほどの小さなご神体で、お堂の中にも五体納められている。

歓喜天像の御姿は象頭人身で单身、双身とあり筑波のは双身像で男天と女天が抱き合っている。男天は魔王、女天は十一面観音の化身、つまり善悪がしっかり抱き合う形を仏像にした昔の人の悟り、知恵には恐れ入るばかりです。富を与え、病を除き、夫婦和合、子宝も授けるのが聖天様のご利益だそうです。

九月の例大祭には特に深い関係はないが、同じ聖天信仰ということで妻沼歓喜院から院主、山伏一行がこられ諸行事が行われている。



(熊谷市公協だより 第 34 号 平成 13 年より)